

稱讚 二〇二〇号

二〇一九年十一月一日発行

発行 浄土真宗本願寺派 稱讚寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

H P shousanji.com

二〇一九年度 稱讚寺門信徒会費

年会費 六千円

振込先 城北信用金庫 一ツ家支店

名義 浄土真宗本願寺派 稱讚寺教会

代表 北村 信也

口座 普通 6176051

ほんがんにき
本願力にあひぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

くどく ほうかい
功徳の宝海みちみちて

ほんのう じよくすい
煩惱の濁水 へだてなし

『高僧和讃 天親讃』

ラグビーワールドカップが日本で開催され、日本ラグビーの躍進で盛り上がっている最中、十月十二日、台風十九号が東日本を直撃し、大きな被害をもたらしました。私は十一日にタイから帰国したところで、足立区では避難勧告が発令され、全ての避難所が開放され、避難所を運営する者として私も二夜、避難所で過ごしました。幸い、川の決壊もなく、十三日午前十時には、片付けも済み解散になりました。

そんな中、スコットランドと日本の試合は、予定通り、十三日、横浜で開催されました。この試合は、大変盛り上がり、一七対二三で日本が勝ち、ベスト8になったことで、日本中が歓喜に沸きました。試合終了後、日本の選手はインタビューで、それぞれが勝った喜びを話していますが、誰もが最後、被災された方への力となれば



アユタヤ ワット・マハターン敷地内の菩提樹に納まった仏様

という思いを語っていました。中でも、トンブソン・ルーク選手 ポジションはロック、ワールドカップ四回出場、三八歳)が、ラグビーは小さいこと」とコメントしたことが印象的でした。

台風一九号で、亡くなられた方、行方不明の方、大怪我をされた方、被災された方、関係者の方々の思いに比べたら、このラグビーの勝利で歓喜することを大々的に取り上げることではない、小さな事という意味なのでしょう。ラグビーが大好きで、この試合に勝つために、「One Team」を合い言葉に、並々ならぬ練習、努力してきた彼ら。ラグビー精神である One for All All for One「No Side」を生活でも実践してきた彼らだからこそ、言える言葉なのでしょう。かつて、「これまでの人生で一番幸せ」自分を褒めてあげたい」とのコメントを耳にしたことがあります。そのことに多少とも違和感がありました。その人なりの喜びの表現だからとスルーしてしまいました。しかし、この「小さいこと」と言うのは、自分の人生ではあっても、全てではないし、しがみつくものではない。報われずとも、人生は終わりではないとも読み取れました。大は生きてきたように死んでいく」と、ターミナルケアでもよく聞かれる言葉であります。本当だろうか？人生に努力、生き方の善し悪しを求めているのが私ではありませんが、親鸞聖人は「生き様 方」・「死に様 方」は問わないのが阿弥陀さまだと言われたのではないか。この人生よりも大きな事、後生の「大事」を解決してくださる阿弥陀さまのご本願を聞いて参りたいと思います。

タイ旅行日記

一〇月七日 丹) から

十一日 金) 私は母と姉、鹿児島島の堀さん夫妻の五名で、四泊五日のタイ旅行をして参りました。十月のタイは雨季と聞いておりましたが、幸い移動中だけ夕立に遭いましたが、滞在中、お天気に恵まれ、楽しい旅行となりました。

一日目 十月七日

羽田空港を午前十時三十分、タイ国際航空で発ち、タイ時間の午後三時ごろスワンナプーム国際空港に着きました。母はターミナル内では、車椅子選任のポーターに押され、それに私たちは歩いて付いていったのですが、ターミナルが広すぎて、なかなか入国審査の場所に着かず、不安にもなりましたが、ポーターは到着出口を出て、JTBの現地ガイドさんに会うまで付き合ってくれました。後で、チップを渡すべだったと思いました。

車に乗り込んで、ペニンシユラ・バンコクホテル(西泊同じ)に直行しました。ガイドさんはウマワディーさん、本人からウマさんと呼んでくださいと言われたので、以後、私たちは「ウマさん」と呼んでいました。運転手さんは、カンブロンさん、無口でしたが、ニコニコとやさしそうな方でした。三日目までこのお二人が案内してくれました。ウマさんは、タイ全体で七千万人、バンコクの人口は七百万人と言った後に、間違いました七百万人と七百万人でしたと訂正されたのですが、どうみても七百万人だろうと思うくらいバンコクは大都市でした。後で調べたら、タイ全体で七千万人、バンコクは八百万人を超えていました。ホテル内で食事をして、一日目は終了。

二日目 十月八日

午前七時過ぎ、皆で朝食をとりました。堀さんが、昨夜、水漏れがして、電話でフロントに伝えましたが、なかなか理解してもらえず、やっこのことで、

修理にかけつけてくれた。散々な目にあったけど、ホテル側がお詫びを兼ねて、グレードアップした部屋を用意してくれたことをお話しされた。お父さんは、万幸、塞翁が馬」という表情でした。午前十時にホテルを出発して、一時間半程で、アユタヤに着きました。船だと三時間掛かると聞いていたので、ガイドさん付きの車移動にしておりました。今回のタイ旅行の一番の目当ては、アユタヤ遺跡に触れることでした。

アユタヤは今のバンコク王朝の前々のアユタヤ王朝 十四世紀(十八世紀)の首都でした。隣国のビルマ(現ミャンマー)と何度も戦争をして、最後侵略され、殆どの仏像・仏教建築を破壊されて、今に遺っているのです。同じ仏教国でありながらと思えます。タイは微笑みの国と言われますが、良ミャンマーに対するタイの人々は今もよく思っていないそうです。アユタヤには日本人町があったそうです。これは日本で関ヶ原の戦いで降、浪人となった武士を軍事を高めるために傭兵として雇ったとのこと。日本人千人が住んでいたそうです。その中に山田長政という方はタイで有名だそうです。

タイでは、曜日毎に仏さま・色が決まっています。人々は、自分の生まれた曜日を覚えていて、その曜日の仏さまを拜んだり、色を身につけていると幸運になると言われています。日本では自分が生まれた曜日など気にしな



ワット・ヤイ・チャイ・モンコン

尖った様
仏像は金
で覆われて
いた
大仏塔
の像元は
式の大仏
塔の像元
が覆われて
いた

本尊 釈迦
先端が鋭
たスリ
式の大
涅槃像
で覆わ

いですよね。

ワット・マ
ハターンに菩
提樹に覆われ
た仏頭があり
ます。仏塔は
先端が丸いク
メル様式と
尖ったスリラ
ンカ様式から
成っておりま
す。バラバラ
に破壊された
仏像がまとめ
ています。

堀さんと象
に乗りました。
奥さんに

乗らないのですかと尋ねたら、虐待になるからおっしゃいました。十分間乗ったのですが、揺れて乗り心地が悪かったです。不意に象の額を思い切り鞭で叩くので、堀さんの奥さんが言われたことも最もだと思えました。



ワット・ロカヤ・スター

なナイトマーケット)に連れて行ってくれました。ホテルから船でサパーン・タクシン駅まで渡り、大分並び待たされましたが、市民の通勤手段となっています。広すぎるし、平日なのに人がワンサカいました。帰りも同じルートで帰りました。



ワット・マハターン

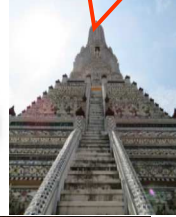


三日目 十月九日



たように思えました。

晴天に恵まれ、バンコクの三天寺院を参拝しました。初めに、ワット・ア alun を参拝しました。タイの宗教は、九五パーセントが仏



教徒 土座部仏教)ですが、この大きな仏塔には、シヴァ神が掲げられており



ヒンズー教ではないかと思うほどでありました。後で調べ



です。ウマさんも仏教徒で、毎週日曜日にはお寺に参拝しているそうです。次にワット・ポーに参拝しました。ここは、バンコクで最古の寺院だそうです。大きな長い黄金の涅槃像 釈迦

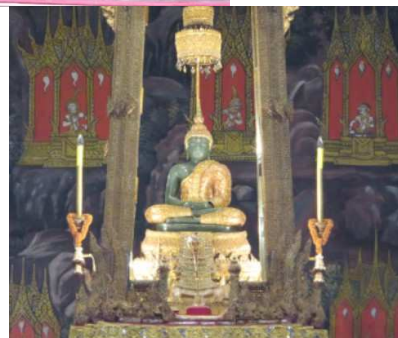
装飾の一部だそうです。

仏)が安置されています。二十バス出して



庭に出てみると、西洋風の門番や中国系の門番の像が立っています。貿易が盛んであったのでしよう。当時キリスト教は入っていませんが、儒教や道教

裏には螺鈿細工で描かれた仏教の宇宙観が表現されているそうです。



三つ目に、ワット・プ ラケオを参拝しました。ワット・プ ラケオは王室専用寺院です。本国王朝の始祖のラマ一世が二七八二年に着工。建物内に入るとき、服装検査がありました。タンクトップや短パンでは中に入れません。私たちが行った時も

は入っていたのかもしれない。また、お寺は教育の場であり、医学も取り入れられ、今でもタイ古式マッサージの総本山の学校があります。回廊には数え切れない程の仏さまの像が安置されています。後で知ったのですが、残念なことに回廊のまん中にご本堂があったようで、参拝しそこないました。





海外の観光客が足止めされていました。
本堂には、翡翠の仏像が安置されており、別名「エメラルド寺院」とも呼ばれています。
本堂から門を出ますとチャックリー宮殿の前に出ました。現在は王様が住んでいないそうです。

「王様と私」を思い起こすような素敵な建物です。

前後しますが、ワット・アルンからワット・ポーに行く途中、両側にお花屋さんが並ぶ通りがありました。日本でも寺院の近くにはお花屋さんがありますが、何十件もあると、どこで買ったか迷ってしまい買い損ねてしまいました。



三大寺院を参拝して、ある食堂（チャイナタウンの近く？）で遅いお昼をとり、一端、ホテルに午後四時過ぎ帰りました。

本来、ここでウマさん達とはお別れなのですが、日本で見たガイドブックに載っていた色鮮やかなテント（屋台）があるところに行きたいとウマさんに相談しました。ウマさんは、運転手のカンブロンさんにそこまで連れて行ってもらいましょうと掛け合ってくれて、午後六時にホテルを出て目的地まで連れて行ってもらいました。

そこは、タラート・ロットファイ・ラチャダーというところで、エスプラナーデというビルの駐車場からよく見えるということで、ウマさんが案内してくれました。そして、その屋台に行く方途も教えてくれて、そこでお別れしました。お礼も込めて一緒に夕飯を食べましょうと誘ったのですが、昨日同様、夜は食べないということでした。ウマさんと別



れて五人でその屋台に行きました。人が多すぎて、座れそうもなく、半分も回らないで、暗くなったところで、先ほどの駐車場に上がり、色鮮やかに光るテントを見て、パンフレットの通りとはしやぎました。帰りは一台のタクシーに五人乗って帰りました。日本円で五く六千円ぐらいでした

四日目 十月十日

この日は、ガイドさん無しで自由行動です。とはいえ五人で行動しました。ホテルから一日フリーパスのモノレールのチケットをもらっていただきましたので、ホテルから船に乗り、サパーン・タークシン駅からモノレールに乗って、サヤム駅に向かうおもうと思っておりました。ホームに上がったから偶々来たモノレールに乗ったら、途中で逆方向に向かっていることに気づき、乗り換える羽目になりました。モノレールの椅子を見たら、日本とは違うところがありました。お年寄り・小さい子ども・妊婦さん・怪我をした人は、共通しているのです。お坊さんの絵が描いてあるのです。



タイでは誰もがお坊さんと王様を尊敬しているようです。悪口を言ったら罰せられるとか？

サヤム駅に行ったのは、大きなショッピングモールがあるということで、お土産買いが目的でした。目的地のセントラルワールドまで空中歩道があるということ、私たちは動く歩道だと勘違いしておりました。歩くしかなく、一キロとは言いませんが、やっとのことで、セントラルワールドの入口ま

で着きました。そこから伊勢丹に行こうと中に入ったら、これまた広くて、行けども伊勢丹に着きません。途中、カートに乗っている人を見かけ、うらやましく思えました。やっ伊勢丹に着き、ちよっと買い物をして帰ることにしました。来た道をまた歩くのは辛いということで、あのカートに乗ろうと言うことになりました。しかし、いざ乗ろうと思っても、どこで乗れるのか分かりません。スタッフであるうら人に聞いたのですが、カートの乗り合い場所を尋ねようとしても、なかなか分かってくれませんでした。そうこうしているうちにカートが近くに來てくれて、セントアの入口まで乗せてもらいました。空中歩道を歩いていたら、大きなきれいなビルの合間に、路地裏を見ました。表は華やかに見えますが、現実の生活がそこにありました。

ホテルに帰ってから、近くのアイコンサヤム（グモール）に船で行きました。堀さん夫妻は、歩いて行ったとのことでした。

明日は午前中に空港に行くだけだから、実質、今日が最終ということ、最後、少々贅沢な夕食会にしようと思、前日にウマさんに相談し宿泊ホテルの近くで、タイ古舞踊を見ながら食事ができるサラ・リム・ナムというレストランを予約してもらっておりました。楽しい夕食会になりました。



五日目 十月十一日

楽しい一時はあつという間に過ぎるものですね。今日の夜九時には東京かと思いつつ、昨夜から台風十九号が気になり、飛行機は飛ぶだろうか、羽田に着陸するだろうかと気がかりでした。私の方は、十二日は何もないから、一日ぐらいいずれでも良いかぐらいには思っていました。堀さんの方は、十二日に、鹿児島で予定があるようで、絶対飛んで欲しいと思っておられたと思います。



タイを十三時に発ち、羽田に日本時間二十一時頃に無事到着しました。台風が近づいていましたが、そんなに機内は揺れませんでした。ずっと映画を見ており、あつという間に着いた感じでした。

羽田で堀さん夫妻とお別れしましたが、明日鹿児島行きが飛ぶか心配しておられました。

翌朝、朝一で帰れて、今、車の中ですとメールがありました。よく飛行機が飛べたなあと感心してしまいました。

私たちは空港内の駐車場に停めていた車で家に帰りました。家の近くでコンビニに入ったら、品物が殆どありませんでした。台風に備えて皆な買い込んだのだと知りました。税関等を通してなんやかんやで、結局帰り着いたのは、御前0時前でした。

タイ滞在の余韻を残しながら床に就きました。明日大変バタバタすることも知らずに・・・。

編集後記

ウマさんが簡単なタイ語を二つ教えてくれました。おはよう」「こんにちは」「さようなら」を「サワディーカー」(女性)「サワディークラップ」(男性)一つで表現するということと、もう一つは、「ありがとう」「ごめんなさい」を「ヨップンカー」(女性)「ヨップンクラップ」(男性)と表現することです。

ホテルのスタッフやお店の店員さんと接すると、言葉がすぐ出ずに、思わず先に手を合わせてしまうことが度々でした。仏教国というイメージでいたからでしょうか。微笑みの国」と言われているくらい、会う人会う人ニコニコしていました。日本風でいう「おもてなし」なのでしょう。

タイでは、国民の九五%が仏教徒です。上座部仏教「テーラワーダ仏教」と言って、スリランカ・ビルマ・カンボジア・ラオスなど南伝の一種です。日本は、チベット・中国・韓国・ベトナムなど北伝の大乗仏教です。

上座部仏教は、この世に生きることは苦しみであり、苦しみの原因は執着する心だと。その執着を断つ方法は出家して僧侶として修行することであると説きます。つまり、出家して悟りを開いた者だけが救われるという考えが基となっています。また、タイの人は、輪廻転生を信じており、タンブン(徳)を積みめば、来世では幸せな生まれ変わりが出来ると信じられています。最大の徳は僧侶として出家することですが、在家でも様々な徳を積むことが出来るのです。お寺に寄付するとか。僧侶に托鉢すると

か。一定期間僧侶になるとか。息子を出家させるとか。小鳥や魚を逃がしてあげるとか。五戒(殺生しない・盗まない・犯さない・嘘をつかない・酒を飲まない)を守るとか。

そういうところから、出家したお坊さんは尊敬の的なのでしょう。

もう一つ理由があると思われます。それは、エイズ患者を看取っているのが、僧侶の方々だそうです。治りようのない死を待つ人の傍にいるのが、僧侶なのです。

元々、僧院の役割として、信仰の場として、徳を積みむ場として人々が祈りを捧げにやってくるのですが、村の集会所でもあり、相談所でもあり、娯楽の場でもあり、病院・学校でもあったのです。

日本でも四天王寺には、敬田院・施薬院・療病院・悲田院がありました。現代はさらに公益性・福祉性が求められてもおります。一昔前は、葬式仏教」と揶揄されていましたが、その葬式も僧侶が関わることが減ってきているのが、日本の現状です。

お年寄りの為ではない。亡くなった人の為ではない」と言われてきたことが、今生での「幸せ感の充実」と勘違いされているように思われます。

仏教信仰の篤いタイでも現代の若者の間では、パワースポットが流行っているようです。

今生での幸せを私たちは求めているに過ぎないのかも知れません。

終末期に携わる「ビハラー」は「後生」を問うてくれていると思います。お釈迦様が説かれた仏法は時・場所・人を問わず、普遍だと思っています。

タイから帰国、その翌日は…

十月七日から十一日まで、タイに行っていました。十日に、一樹寺のご住職から台風十九号で十三日の報恩講は延期しますとのご連絡がありました。その時は、大きな台風が来るのだなあ、十一日は飛行機が飛ぶのだろうか、一樹寺様の報恩講は延期になったけど、同日十五時のご法事は延期になってないから、帰らなければならぬのになあぐらいにしか考えず、タイで楽しんでおりました。

十一日お昼過ぎ、名残惜しく、飛行機に乗り、同日、日本時間、夜九時頃、羽田空港に着きました。まだ台風の影響は見られませんでしたが、帰宅途中、コンビニによりましたら、食べ物飲み物が全然ありませんでした。そこで、初めて、今回の台風はよっぽどなんだと知りました。

翌朝は、まだ静かでしたが、足立区内では、
○小学校・○中学校を開放します」との避難勧告の放送が流れました。

最初は、私が住む地域の避難所の名前が出ませんでした。確認のため、避難所である東栗原小学校に行ってみましたが、誰も居ないことを確認しました。

私は避難所運営の本部長でありますので、区民事務所にたずねました。順次、開放の案内をしておりますので、その連絡を待ってくださいと言われました。お昼頃、連絡があり、午後三時に避難所を開放します、順次、区職員が参りますので、運営役員に午後三時に避難所の東栗原小学校正門前に集合していただくよう連絡し



てくださいとのご案内がありました。荒川、綾瀬川の氾濫が予想され、河川敷近くの方々が避難されることでした。

早速、他町会の会長に連絡し、各自の町会の役員さんに集合のことを連絡していただくよう案内し、自分の町会の避難所訓練の正副部長にも連絡

して、それぞれの部員さんに連絡していただくよう案内しました。それでも、避難までしないといけない状況とは思えませんでした。が、他町会の会長さんから、ただ集まるだけなのか、きつと、泊まりがけを予定して集まるのではないかとある役員から問われたので、私に確認してほしいと連絡がありました。慌てて、もう一度、正副部長さんに連絡し直し、私自身もおにぎりを用意して、避難所へ行きました。

三時前に行きますと、既に数十名の役員が集まっており、遅いよと言われました。区の職員はまだ来ておらず、皆が皆、どうするんだと言うので、本部長の私は常にスペアキーを預かっておりましたので、区の職員を待たずに、校舎の鍵を開け、体育館、南門を開放しました。役員さんに机・椅子、部署名入りのビブスを運んでもらい、本部を設置し、受付、毛布の準備をしました。それと同時に次々と避難してこられました。

夕刻には、風雨が強くなり、百九十名程の方々が避難にこられました。姉から避難所に行った方が良いかの連絡があ

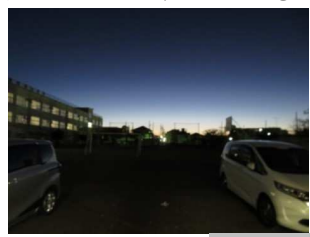
りました。家には、タイから帰国したばかりの母と姉が居ります。母は足が悪く、寝るときは呼吸器を付けなければなりませんから、避難所に来るよりも、家の二階に居た方が良いと判断しました。それでも不安だということで、甥に居てもらおうよう連絡しました。

ペットを連れてこられたご家族が、どうしてもペットと一緒に居たいから、体育館以外に休める所はないかと相談がありました。最初は校舎の入口内に設定したら、風が吹き付けてくるようになり、一階の教室に入っていたきました。また、車で来る方はどうしますかと聞かれたので、校庭に駐車して受け入れてくださいと指示いたしました。後で知ったのですが、ペットお断り、駐車お断りが基本だそうです(？)

午後七時ごろ炊き出しをして、全員に非常食を用意しました。落ち着いたところで、役員の間で交代時間を決めました。

午後九時、体育館を少し暗くしたのですが、半過ぎ、綾瀬川が氾濫する可能性があるとの連絡があり、急遽、全員体育館から校舎の二階三階に移動してもらいました。ペットの犬同士、同じ所を嫌がることもありましたが、大した混乱もなく、落ち着き、静かなものでした。

午前〇時頃になると雨風も止み、三分の一程の方が徐々に自宅に帰り出しました。午前四時半には東京湾が満潮を迎えるので、川の水面が上昇し氾濫しかねないので油断出来ないということで、起きておりました。気づけば、空は満天の星、満月に近い月が美しかったです。だんだんと夜が明けてきて、午前七時には、避難した人は全員帰宅されました。



稱讚寺報恩講のご案内

日時 十二月十五日(日)

正午～十六時

講師 有賀 良雄 師

東組 一樹寺ご住職

日程

- 二 〇〇 お齋
- 三 〇〇 報恩講法要

三奉請

表白

讃仏偈 (お焼香)

*入門式

正信偈 宗祖讃迎作法)

御俗鈔拝読

- 一四 〇〇 ご法話
- 一五 〇〇 茶話会
- 一六 〇〇 恩徳讃

*入門式 新しく稱讚寺にご縁の
あつた方が、受ける儀式です。
※あらためて報恩講のご案内をさせ
ていただきます。

予定では、お昼まで掛かる
だろうということで、十二時
から片付けにくることになっ
ていた役員さんもいたのです
が、十時前には片付けも終わ
り、避難所運営の役員は、こ
の時点で解散しました。午後
三時の所沢の法務に行くに
は、ぎりぎり一時までには切り上げたいとずっ
と思っていた私にとっては、ありがたかったで
す。それも、被害がなく、事故もなかったから
のことでもあります。今回は良い経験になったで
終らないようにしたいと思いました。
他地域では、河川が決壊し、氾濫して、大変
な被害になっていました。未だに避難生活を余
儀なくされておられます。
仮に二日三日避難が続いていたら、どうして
いけないだろうかと思えます。
後日、独居高齢者、避難支援者を伺い、お見
舞いの通知を届けました。その翌日、ケアマネ
ジャーの方から全盲の方が十二日は、避難勧告
が出ていても、誰も来てくれず、不安の中、一
昼夜過ごしたことを話されたということで、今
後の対策を検討したいとのお電話をいただきま
した。
足立区では孤立ゼロプロジェクトを進めてお
り、町会でも訪問アンケートをしておりますが、
今回、機能しなかったというよりも、私自
身、避難所から一歩も出る余裕もなく、避難し
たくても出来ない方が近くに居られたことも、
念頭になかったことを後悔しました。
被害に遭われました方々に心よりお見舞い申
しあげます。

トピック

去る十月二十六日・二十

七日は、鹿児島稱讚寺の永
代経法要で帰省しておりまし
た。法要が終り、くつろいでいたら、佐多
岬の展望台が新しくなったから行ってみよ
うということになり、母と姉と義姉と姪の
五人で行って参りました。

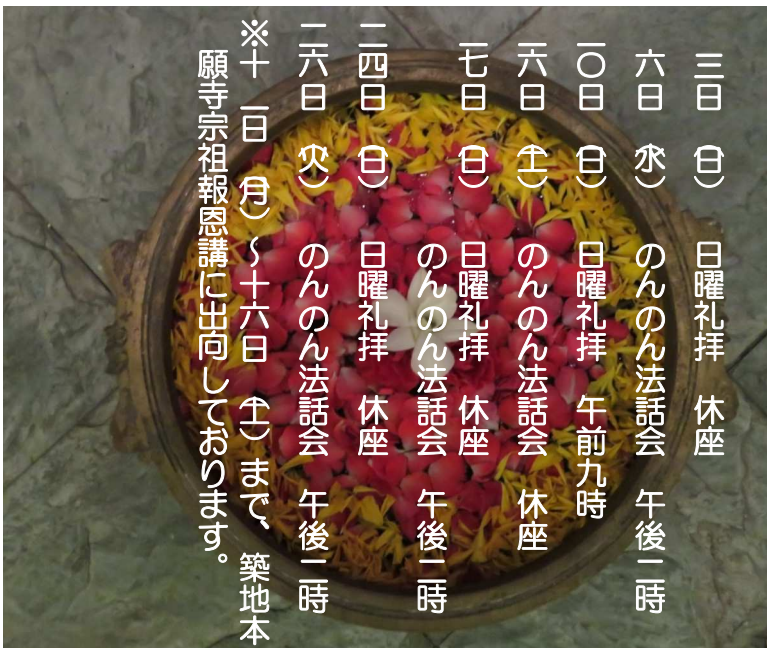
インフォメーションで、電動車椅子をお
借りして、母はそれに乗って、灯台が間近
に見える展望台を目指しました。起伏の激
しい道なのですが、車椅子を押す私はただ
支えるだけで、坂を上がり、自動的にブ
レーキを掛けながら下って
いく優れものでした。話を
聞くと、佐多出身の名古屋
の社長さんが記念に五台ご
寄付なさったそうです。
一台四十万円だとか。

お金があってもなかなか
出来ないことです。



稱讚寺 行事予定

二〇一九年十一月の行事予定



三日 日曜礼拝 休座
 六日 水 日ののん法話会 午後一時
 一〇日 日曜礼拝 午前九時
 六日 土 日ののん法話会 休座
 七日 日曜礼拝 休座
 二四日 日曜礼拝 休座
 二六日 火 日ののん法話会 午後一時
 ※十一日 月 十六日 土 まで、築地本願寺宗祖報恩講に出向しております。

二〇一九年 十二月の行事予定

- 一日 日曜礼拝 休座
- 六日 金のののん法話会 午後二時
- 八日 日曜礼拝 午前九時
- 五日 宗祖親鸞聖人報恩講 正午
- 六日 日ののん法話会 午後二時
- 二三日 日曜礼拝 午前九時
- 二六日 日ののん法話会 午後二時
- 一九日 日曜礼拝 午前九時

二〇二〇年 一月の行事予定

- 一日 水 元旦会
- 五日 日曜礼拝 午前九時
- 六日 日ののん法話会 午後二時
- 九日 木 二〇日 金 本山・御正忌報恩講出勤
- 二日 日曜礼拝 午前九時
- 六日 日ののん法話会 午後二時
- 九日 日曜礼拝 午前九時
- 二六日 日曜礼拝 午前九時
- 日ののん法話会 午後二時

二〇一九年 十一月 法務 布教 出向予定

- 二日 丸山家十三回忌法要
- 三日 東組浄泉寺報恩講 坂根家月忌参り
- 四日 ビハークア研究会
- 五日 松田家祥月命日
- 七日 加藤家三回忌納骨 徳蔵寺
- 九日 高橋家満中陰 雲妙寺法助
- 二日 築地本願寺報恩講
- 二三日 福寿園 東組稱福寺報恩講
- 二七日 栃木南組観専寺報恩講
- 三〇日 雲妙寺法助

ほうおん
報恩 ぞ
 おん むだ
恩を無駄にしないこと
 二〇一九年 心のともしび 十一月カレンダーより

